就活コンシェルジュ

社会の情報、今から慣れて

Q 先輩から新聞を読むことを勧められますが、続きません

A なじみのあるデバイスで、社会経済情報そのものに慣れるところから始めよう

社会・経済全般の動向は、どんな仕事に就いても多かれ少なかれ必要です。新聞での情報収集を勧められた方も多いでしょう。

選考で一般常識試験を課す企業が一定数存在しますが、就職活動との関わりはそれだけではありません。

面接の際に「今日の新聞に載っていた○○の弊社への影響をどう思いますか？」など、時事問題への意見を尋ねられ、大慌てする人が毎年多数。企業側の狙いは、自社の事業への理解度や思考力の評価、マニュアル依存学生を見抜く策としての活用などさまざまです。

社会・経済の動向をつかむには地道な習慣づくりが基本です。ある行動を2週間続けると継続している自信が生まれ、2カ月で習慣として定着するといわれます。つまり、今始めれば、年が明けて試験や面接が始まる頃までに、「社会人の常識」を問われても怖くない状態を目指せます。

挫折せず習慣化するためのポイントは、ハードルの低いことから始めて段階的に引き上げていくこと。まず、スマートフォン（高機能携帯電話）や携帯電話など、なじみのあるデバイスで社会経済情報そのものに慣れましょう。お勧めは、新聞社や経済誌のツイッターやフェイスブックの公式アカウント・ページをフォローすること。主要ニュースのエッセンスを、スキマ時間に無理なく自然にインプットできる環境を無料で簡単につくれます。

社会経済情報への抵抗がなくなったら、次は新聞・経済誌の本誌や有料アプリなどにチャレンジを。インプットの習慣が定着したら、自分なりの意見を整理し、家族や身近な社会人との会話で話題にしてみるといいでしょう。

（リクルートキャリア　就職みらい研究所研究員　三輪麻衣）

◇

就職活動に関する疑問や体験をお寄せください。読者の参考になるものは、就活コンシェルジュで紹介させていただきます。〈メール〉life@sankei.co.jp〈FAX〉03・3270・2424

教育で災害に強い社会づくり

「ジュニア防災検定」来月8日スタート

小学生からの防災教育を検定形式で身に付けてもらおうという、国内初の「ジュニア防災検定（JBK）」（内閣府など後援）が来月8日、スタートする。単に資格を取るのではなく、事前課題や事後課題も合わせて受けることで、防災への継続的な関心を持ってもらうのが狙い。防災に強い人材を生み出すきっかけになりそうだ。（藤浦淳）

70点以上で合格

検定は、小学3～5年生の初級、小6生と中学1年生の中級、中2生と中3生の上級の3段階。検定の内容はまず、受検前に事前課題が出される。家庭で、家具の転倒防止や備蓄食糧、いざというときの安否確認の方法など、防災、減災について話し合い、課題シートにまとめる。

試験当日の問題は、災害の種類、歴史、科学、社会の4分野から出題。事前の勉強は必要なく、当日考えることができるよう工夫されている。最後に事後課題として、自由研究方式でポスターや壁新聞などを作成、提出する。

3つの課題の総得点が70点で合格となる。しかし、主催する一般財団法人「防災検定協会」事務局長、浜口和久さんは「ふるいに掛けて落としていく検定ではない。全員の合格がわれわれの希望です」と強調。あくまで「防災教育」の理念として貫かれる。

東日本大震災では、日頃から津波に対する防災教育を受けていた岩手県釜石市の子供たちが自分たちの判断で巨大津波から逃れることができた。同協会の平野啓子理事長は「震災後、いかに防災教育が大切かがはっきりしました。現場での教育に検定を利用し、将来の災害に備える社会をつくってほしい」と話す。

ジュニア防災検定について語る平野理事長＝東京都千代田区

各地に広がる

1回目の試験は小学3年生から中学1年生を対象に、国学院大学渋谷キャンパス（東京会場）と追手門学院大手前中学・高校（大阪会場）で実施。学校別に多数の受検がある場合は個別に対応する。日大豊山や佐野日大など日本大学グループの中学各校や神奈川県座間市教育委員会、東京都港区教委、関西の追手門学院大手前中学校、九州でも熊本マリスト学園中学などが受検を決めるなど動きは各地に広がっている。

座間市の遠藤三紀夫市長は「検定をきっかけに防災意識の高い人材を育て、災害に強いまちづくりを目指したい」と話している。

問い合わせと申し込みは、防災検定協会☎03・3556・5055、メール（info@jbk.jp.net）で。12月8日の検定試験申し込みの締め切りは11月11日。

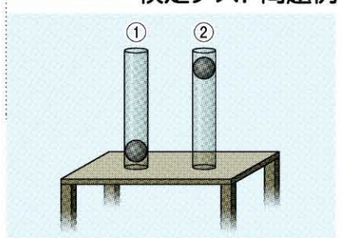
ジュニア防災検定

社会人向けに比べ、子供向けの防災教育が進んでいないことに危機感を感じた教育、防災、メディア関係者などの間で「ジュニア防災検定」を始めようという機運が高まり、昨年9月、設立準備委員会を結成。今年5月、一般財団法人「防災検定協会」を立ち上げた。

子供たちに防災力を付けてもらうことを目的に、①日頃から災害に備えられる「知識としての防災」②災害時に生命を守る行動ができる「自助のための防災」③防災・減災に何ができるかを考えることができる「共助・公助としての防災」を目指す。

問題作成は進学塾「日能研」が協力した。○や×で正解を問う問題ではなく、試験会場で自ら考え、防災の力を身に付けられるように問題が工夫されている。知識、想像力、行動力が養われる新しい検定となることを目指す。

検定テスト問題例（初級）



軽いプラスチック筒の中に①、②のように粘土玉を入れて机（つくえ）をゆらすと、①が②より倒れにくい。これを踏まえて下の問いを考えてください

問い

地震のときに、左に描かれたたなが倒れにくくするために、あなたは何段目に何を入れますか？　理由とともに説明しましょう

子育てなんでも相談室

暴力的な番組ばかり見る

Q　4歳の息子がいます。怪獣や変身ヒーローの特撮番組が好きなのはいいのですが、そればかり見ます。暴力的な子供にならないか不安です。

A　戦後生まれの男性なら、誰でも一度は怪獣やヒーローものが大好きだった時期があるはずです。私を含め、男というものは子供時代から格闘関係が好きで、プロレスや格闘技も観客の8割以上が男性です。見るだけでスッとするのです。女性は元来、暴力が好きではないので、そういう子供番組にも眉をひそめるお母さんは多くいます。

息子さんも特撮ものを見て、その都度、何らかのストレス解消になっているはずです。しかし、何でも過ぎたるはなお及ばざるがごとし。見過ぎはやはりいけません。ビデオに録ってセリフを覚えるほど何回も見る、他のジャンルは一切見ない、などがないよう、お母さんが上手にコントロールしてほしいと思います。

特撮番組も玉石混交です。子供が涙するほどの感動作品もあれば、逆のものもあります。見分ける方法は、親も一緒に見ることです。見たうえでなら、親が判断していいと思います。見もしないで規制したり、頭ごなしに禁じたりするのは逆効果だということは、ご自身の子供時代の経験でご存じだと思います。

自分が見ているものに親が関心を持ち、「あれは何？」などと聞かれたりすると、子供は理解されたような気持ちになり、得意げに話します。そういうやりとりの中でなら、子供も聞く耳を持てるようになり、親の指示にも従えるようになります。私は、子供に良くないのは怪獣ではなく、実際の人間が人を殺したり殴ったりする番組だと思います。ご両親が見ている普通の番組にこそ、それらが多いこともお忘れなく。

（こどもコンサルタント　原坂一郎）

きょうのレシピ

お弁当のおかずにも

サツマイモとピーマンの炒め物

材料〈4人分〉
- サツマイモ……1本
- ピーマン……3個
- 塩昆布……20グラム
- 酒、コショウ、サラダ油

エッセ 今日のお総菜 ESSE
協力：フジテレビ商品研究所

●撮影／原ヒデトシ　●調理／中村千寿子
●スタイリスト／倉内真理子　●担当／田山奈留美

❶サツマイモは5ミリ厚さの半月切りにし、水にさらして水気をきる。
❷ピーマンは縦半分に切り、へたと種を取り除いて、横に5ミリ幅に切る。
❸フライパンにサラダ油大さじ1½を熱して①を炒め、水大さじ2を加えて蓋をし、蒸し焼きにする。
❹③の蓋を取り除き、②を加えて軽く炒め、塩昆布、酒大さじ2を加えて炒め合わせ、コショウ少量を加え混ぜる。
❺器に④を盛る。

調理時間　15分
1人分　133キロカロリー

【一口メモ】
◇炒めてからしばらく時間をおいた方が、塩昆布の味がなじみ、おいしくなる。
◇ボリュームを出したい場合は、軽く塩をふって炒めた鶏ささ身を加えてもOK。

「きのうきょう」原稿募集

「きのうきょう」の原稿を募集しています。生活の中で感じたことを400字程度にまとめ、住所、氏名、年齢、職業を明記して、お送りください。原稿は応募者の自作で、本欄のみへの投稿作品に限ります。宛先は、〒100―8078か〒556―8660（いずれも住所不要）　産経新聞文化部生活面「きのうきょう」係。ファクスは03・3270・2424です。採用分には2000円分の図書カードを差し上げます。

不在文字情報（0）
不在画像情報（0）
あふれ記事情報（0）
最適化未処理情報（0）
モノクロ不在画像情報（0）